

広報

みのがも

11—1日号

昭和62年

No.371 人口の動き10月1日現在 総人口41,606人 男20,481人 女21,125人 世帯11,410戸 発行/美濃加茂市 編集/秘書課 25-2111



4万人でにぎわった、ECウィーク美濃加茂会場

アンティ
ツク
街道で
文化の
交流



日欧「みち」大評定

中山道は心の道

日欧みち大評定「ヒューマン・ロード・フォーラム」は10月10日、人間道路会議が主催して文化会館で開かれました。会議に先立ち、人間道路会議の二本宮二運営委員長が、「人間らしい道づくりはどうあるべきか」ということをみなさんと一緒に考えていきたい」とあいさつ。続いて美濃中山道連合代表世話人の渡辺博万市長が、「人、物、情報の活性化を図るため連合組織を発足しました。きょうの会議が意義あることを期待し、開催地として歓迎します。」と述べ、フォーラムに入りました。

渡辺

進行・司会をつとめる渡辺です。きょうのパネラーは実に多彩ですので、いろんな立場、いろんなアングルから華やかな議論が交わられるのではないかと期待しています。早速ですが、問題提起ということでマイケル・ベレントさんと、梶原拓さんに講演していただきます。ベレントさんからどうぞ。

ベレント

今回が私にとって最初の日本訪問だったんですが、東京ではなく、岐阜県であったことに大変喜ばしく思っています。というのも、本場の日本を見ることができたと感じているからです。

経済的、環境的 バランスが大切



EC委員会本部
環境問題担当スポークスマン
マイケル・ベレント

では、これからECの道路政策について、我々がどういう問題に直面しているかお話しします。
ご承知のように、1957年にEC共同体が設立されて以来、加

盟国間の貿易および観光というものは非常に増加し、そのため道路の必要性も重視されてきました。
たとえばイギリスは、1973年に共同体に加盟して以来、他のEC加盟国間との貿易量が30%から50%に伸びています。同じように他の加盟国にもこういうことがおきており、道路の必要性が理解できるといえます。

EC加盟国間の国境を通過する時、個人の仕事、あるいは休暇のためなら簡単ですが、物を運ぶトラックとなると、そうはいきません。自由市場が確立されていないからです。これは早急に解決しな

ければならない問題です。EC共同体では、1992年までに市場開放を行うという目標を持っています。これは、物が加盟国間を自由に動くということです。しかし日本でも山が多いように、ヨーロッパでもアルプスやピレネー山脈が障害となって交通がスムーズに行かない問題があります。ドーバー海峡もそうです。これには、トンネルを通すという計画がありますが、財政面では国が全然負担しませんので、パブリックとプライベートセクターをミックスした方法がとられています。こうした大きな道路建設は計画の段階が非常に大切で、ヒューマン側面が必要で、これらの大きな道路を建設するというのは、経済的需用を満たすために造られますが、同時に環境をよりよくするというところにも寄与するわけです。たとえば、

ぎふECウィーク

華やかにフィナーレ

ヨーロッパとふれあう。ぎふECウィークが10月6日に幕開けし、フィナーレを飾る10月10日には、美濃加茂市が会場となって、大パレードや青い目の大名行列、中山道まつり、日欧みち大評定などが多彩に開かれました。



この日、午前9時、美濃太田駅から各種団体など約1,700人の大パレードが出発（商工会館まで）、これと同時に中山道では、関所の開設や落書きコーナー、フォークダンスコーナー、水の彫刻コーナー、籠かきコーナー、物産展コーナーなど、中山道まつりが繰り広げられました。

ぎふECウィーク「ヒューマン・ロード・フォーラム」
GIFU EC WEEK HUMAN ROAD FORUMAPAN-EC ROAD CONFERENCE AT MINONAKASENDO
To Discuss The Way To Activate Our Roads And Home Town

これらの道路を、まちから離れたところに建設することによって、まちに住む人たちに不都合や不快感を与えないということです。こういった側面は、現・未来の道路をデザインしようとしているヨーロッパの道路デザイナーが非常に念頭において考えていることです。というわけで、経済的需用および環境的需用を組み合わせることが

できてはじめて、道路の人的な需用を満たすことができると思います。この人的な需用が、すべての経済的需用の目標であると思っています。

視察 私はよく、東京の方から外国の方が県庁へお客として訪問いただいた時に、「東京は確かに日本ですが、東京イコール日本ではない。あれは特殊な日本です。」

中山道は人の心を
育てる道

と申し上げています。そして、古い日本、あるいは本物の日本が残っている岐阜県を見てお帰り下さいと言葉をかけています。

この岐阜県は、日本の中心で、東西の文化の接点です。東西文化の融合した標準的な文化が形成されています。高山がその典型ですが、同時に中山道も、このモデル的な日本文化を残している貴重な存在であり、また、中山道を通して市町村の人口は岐阜県全体の51%を占めています。文化的にも、歴史の上でも、中山道中心の岐阜県であつてもいいくらい中山道の存在は大きいのです。この中山道を理解する時、次の3つの歴史的特徴があると思います。1つは、関ヶ原の戦いなどの舞台となったように、「戦争の道」であり、2つに由緒ある神社や、正眼寺など妙心寺派の寺が非常に多いことなど

から「信仰の道」であり、3つに昔から中山道沿いは芝居や文楽が盛んだったことから「芝居の道」であると思います。つまり、過去の戦争の悲劇を思い興し、社会の、あるいは心の平和をこい願ひ、そして、芝居に文楽に庶民の喜びが見出されたように、人間にとって何が大切かということを考える道ではないかと思えます。そういう道を、いうなれば「心の道」というのもいいのではないのでしょうか。

日本の標準的な文化が、この中山道に残っているわけですから、このさい、新しく評価しなおし、日本文化の原点をもう一度考えてみるということが必要であると思えます。たとえば、石庭のある寺や、書、俳句、盆栽などに造詣が深い人も多い。これからの美濃中山道を造っていく場合、基本的には、日本の固有の文化が中山道に残っているということをまず前提とすべきだと思います。そして、そういう中山道という空間の中で国際交流を深めていくことが大切だと思えます。

岐阜県は中小企業が多いところですが、これからは、小さな地域社会が活躍する時代であらうと思えます。小さな地域社会では、人間の行動原理が入り、小さいほど人間らしい発想というのが生まれや

午前11時には、商工会館から、青い目の大行列が出発（橋本陣前まで）、駐日EC委員会代表部らが扮する殿様や姫様などに盛んな声援が送られ、日欧の交流に華を添えました。

午後2時からは、文化会館でヒューマン・ロード・フォーラムが満席の参加者を集めて開かれました。

また、EC駐日代表部の一行は10月8日、美濃加茂市長の案内によって県代表らとともにライン下りを楽しみました。

なお、10月9日に開かれたヨーロッパへのつどいは約500人が参加、10月10日の参加者を含め、延べ約4万人の人出でECウィーク美濃加茂会場を盛り上げました。

すいのです。中山道という空間を場にして、中小企業とか、あるいは、白川町がパイプオルガンを通してピストイアと交流しているように、そういう小さな積み重ねが国際化に向け大切だと思います。そして、こうした心の道を育てあげていくためには、どうしても近代的な道路システムを構築しなければなりません。基本的には、先ほどベレントさんが言われたよう

に、まちをう廻して道を通さないといけません。この地域には、東海環状道路の構想がありますが、建設を急がないと中山道の保存も容易ではありません。こういう道がなければ、生活の糧となるお金が生まれてこないわけですが、同時に、中山道のように、人間の道も大事です。これは、早く過ぎ去っていく道ではなく、そこで時間を消費するメルヘン街道とか、ロマンチック街道のようなストーリートであると思います。お金を生む道路ではなく、人の心を育てる道路です。両方が相まった時が、人間社会の基礎をささえる道路システムだと思っています。車の道があつてこそ、心の道が守られると結論的に申し上げたい。

渡辺 さて、これから、バネルデイスカッションに入るわけですが、最初にモレシヤンさんどうぞ。

モレシヤン 戦後の日本は、ゼロから国を造らなければならぬという大変な時代を過したため、経済的に余裕がなかったと思います。そういうことから、道にせよ、建物にせよ、間に合わせというこ

私のフランスは、お金持ちじゃないけど、エピソードを一つお話しします。それは、第2次大戦の時、ドイツはフランスを占領しましたが、その時、フランス人が一番考えたことは、逃げるのか、戦うことと同時に、ルーブル美術館の全作品やノートルダム教会の聖像のステンドグラスなどを安全な場所へ持って行ってかくしたということです。すこい予算がかかりました。これは、お金がかかろう

守るのではなく、生かすことを考えてほしい



21歳 ユーティティ・フランソワーズ・モレシヤン

と、かかるまいと、考え方や心の持ち方だと思っています。

たとえば、名古屋からここへ来る間、道には一本ありませんでした。でも、建物を見ていたら、こちらに江戸時代の家もあって喜んでいました。

結論を先に言います。それは、日本の古いものを、保存するということではなく、生かすというこ

とを、ぜひ考えてほしいのです。言いたいことは文化ということですが、便利ということだけではだめで、美意識とか、伝統、文化、そして自然というものを、どう生かせばいいのかということなのです。道には、物を運ぶとか便利さとか、いろいろ考えが出てきますが、夢があってもいいと思います。ヨーロッパの道路には、木はとてたくさん残っています。15年前、車の発展とともにスピードの出る車がで、事故も増えました。で、木があれば事故によって人が死ぬのではないかということから、いろいろなところで木が伐採されました。でも、昨年フランスの国土庁がアンケートを取った、木のあるなしは関係ない」と結論づけたのです。それによって、又、木を植えましようということになり、まだ木が残っている所は、絶対に守りましようということになったのです。木が植わっていると、自然ということの大切さが感じられると思います。

先ほども話したように、東京は日本ではない、日本イコール東京ではないという考え方、私も賛成です。それぞれのローカルや、それぞれの地方に合せてアイデンティティを守った方がいいのではないのでしょうか。パリは、なぜ世界中から注目されているのでしょうか。文化人や芸術家が来るだけじゃなくて、パリに残るんです。ピカソなどもパリに住んで有名になりました。頑固に、いらずに、経済的にちよつと損してでも美意識を守っているからだだと思います。今、フランスで大人気の若いファッションデザイナーが、今年大ヒットしました。それは、18、19世紀の模様を生かし、現代的なものにつくり出したからです。伝統を生かして。

伝説とか美意識ということが、これからの時代には必要だと思っています。日本も、じょうずに古い文化をモダンに生かすことが大切だと思います。経済的にもいろいろな意味で、うまく21世紀へ向う道は一つしかないと思います。それぞれの地方なら地方、国なら国、人間なら人間が、自分のアイデンティティを生かすしかない私は信じています。今、日本は外国と貿易などで問題がありますが、外国から日本の存在とか、尊敬がほしいければ、本物の日本を見せてあげてください。外人は必ず認めてくれるでしょう。ヨーロッパでは、すべ

ての道はローマに通じるという考え方が昔から強かった。日本でも東京への道がほとんどだと思えます。これは、とても残念です。私が学生の頃、初めて来日した時、大阪港に着きました。大阪から田舎の方へ行きたいと日本人に訪ねたら、熱海の方へ行ってみてはと教えられました。でも、それは観光のためにつくられたまちでした。自分で調べなかったせいもありましたが、でも、きょう、こちらへ来て、岐阜の古い道を見て本物の日本のことがよく勉強できました。脇本陣を見てもらった時も、とても素晴らしいと感じました。特に、木でできた家が20年間残っていることは、ヨーロッパの方ではほとんど見られません。古いものは、伝統的な標準的な日本を象徴しています。外国人にも、と見せてもらえたら、とてもいいことだと思います。特に中山道は、都会では知ることのできない古い本物の日本の道であると思えます。新幹線が走っている東海道は、やはりビジネスの道です。そういう所から見ると、東海道はドイツのアウトバーンという感じを受け、中山道はロマンチック街道のイメージが強いのです。そういう2つの平行の道があれば、豊かな日本を築けるのですから、もっと

中山道を見て、本当の日本が勉強できた



毎日新聞編集委員代表
二重義記賞
ヴォルフガング・ポース

中山道を大切にしなければならぬと思います。

私は、ドイツに4ヵ月程滞在し、ロマンチック街道やメルヘン街道を走ったことがありますので、それを思い出しながらアンティック街道中山道というテーマでお話しします。

メルヘン街道やロマンティック街道は確かに素晴らしいと思います。しかし、たとえばスイスの森と湖と山はきれいだ、とみなさんおっしゃるが、よくよく見ると日本の森と湖と山は、スイスに負けないくらいきれいだと思います。日本では、一番きれいなところが土産屋などで目くしされ、景色にそぐわない建物が建っていて景色をおこわしています。ところが、ヨーロッパは、景色のいい所は、ちゃんと見えるようになっていて、一体的に見ても自然になじむような建物になっています。これが、道と景色の基本だと思っています。

それから、沿道に連なるまちがおもしろくないと旅をしようという気にならないと思います。つまり、まちそのものの歴史などに親近感を覚えるような街並が大切だと思ふのです。ロマンチック街道で一番大きな、あるまちで、実は版圖を買ったんですが、そこにあるその版圖と同じ街角がそこにあるんです。その中世の版圖と、そこで撮った写真を比べてみると、人があるかないかが違うだけで、あとは同じだったんです。このように、非常に歴史が身近かに感じられるという楽しさがないといけないと思ふのです。

さて、道路とまちのことを言いましたけど、つくづく思いますに観光旅行の大敵は車の渋滞です。たとえば、昔のまちへ来て楽しみながら走り、泊まりたい宿で泊まる、と、まあ、こういう余裕があるためには、そのまちの幹線道路や環状道路、高速など、都市内を守るバイパスなどがそろっていないと、ゆっくり観光もしていられないと思います。ヨーロッパで、休みにゆっくり観光旅行が楽しめるのは、一方で幹線道路網が完全に来ていて、楽しみのところは楽

しみができるようなゆとりがもたせてあるからだと思うのです。日本は、まだまだ道路網の整備ではおくれいているし、その整備に負担する通行料とか重量税などをみても、おそらく世界で一番高いと思います。今の道路整備のやり方というのは、受益者負担、利用者負担ということになっていて、日本では、30年も前から金利のついたお金を借りて道路をつくって

日本の森と湖と山はヨーロッパに負けてはいない



東京大学生産科学研究科教授
田中 健二

きました。そのために、ドライバなどの負担が非常に大きいというところになっていきます。仮に、今道路を使っている人が、ある期間内で全部負担するのではなく、もっと長期にわたって返すような方法をとり、負担が少なく道路整備ができるようにしてはどうでしょう。

三輪 私は、人間と道路ということについては、文化のともしび

アンティック街道を世界に向けて育ててほしい



三輪 健二

というところをわかっていきます。それは、古代、獣の道であったのが、人がそこで農耕を営むようになると村落、農道ができ、村から村へ道が続いていきます。そして、そこを旅人たちが通るようになると、宿場町ができ、やがて産業が発達して流通機構が盛んになってくると産業道に変わり、更に世界の道が発展すると海の道、空の道ができ、距離が大変近づいてきます。

そんな中で、中山道がアンティック街道としてとらえていくことは大変素晴らしいと思います。私は、ロマンティック街道やメルヘン街道も大変素晴らしいと思いますが、日本の文化を秘めている中山道も素晴らしいかと思ひます。この街道は、かつて隆盛を誇った時代に比べ、そのいい所が見えにくくなるような状態にあるようですが、しかし、古い石段や石

積、一里塚など、貴重なものがいっぱい残っています。対比して見ると、たとえばロマンチック街道はメイン川のはとりにアルプスのふもとへ続く20kmの道ですが、ヨーロッパ産業革命や第2次大戦で大変なめにあいながら、その沿道では、今でも中世の様式を残して生活しているところがたくさんあります。そこには、人々が苦勞をのり越えてロマンチック街道をつくりあげた素晴らしいことがあります。

一方、中山道でも、落合宿や太田宿、今須宿などの宿場があるように、日本には日本の文化、ヨーロッパにはヨーロッパの文化が、それぞれ受け継がれています。どうか、このような素晴らしい文化遺産を持っている中山道を、世界に向けてアンティック街道とうたえるような道に育てていくてくださ。

三輪 私は、建築学科に勤めているので歴史的環境とか、まちづくりといったことに関心を持っています。岐阜県に来て長野県のことを話すのは恐縮なんです、歴史的環境の問題でいいますと、長野県側の中山道沿いは、そういう意味で大変進んで行われていると思います。私も、いくつかお手伝いをし

ているんですが、たとえば馬籠。馬籠を描き出したのは有名な藤村の夜明け前という小説なんですが、その小説を読みますと、明治維新の動乱期に中山道を舞台にして歴史が流れていったということが、実際に生き生きと描かれていて、道路というのは、こういうものだったんだなあということを非常に

まちを高めるための道路でなくてはならない



福川 裕二
千葉大学助教授

実感させられました。

それで、都市計画論の立場から道路の問題を考える時、どうしても気がかりになることを一つだけ申し上げます。それは、道路の持つ二面性ということです。日本のまちというのは、美濃太田もそうですが、道路を軸にして街並が構築されています。向う三軒両隣りというのが一番小さな単位になって地域・コミュニティをつくっていったというのが日本の基本になっています。それが、車が増え

交通が激しくなってくると、本来、道路がまちをかためる一つの軸になつていったのが、反対に町をへだてる役割をするようになってしま

います。その矛盾する道路の二面性をどうするか、ということが道路の計画を考える場合の大きな問題となってくるのです。これは、拡大して考えていきますと、地域ということでも同じことがあると思います。つまり、それまで、それぞれの独自性とか、個性をもつて栄えてきた宿場町が、交通の発達によって、その中の一部の町だけに商業や人口が集中して、それ以外の小さなまちは、だんだん寂れていくというのは、どうも歴史の鉄則であるようです。

道路というのは、便利になればなるほど、守りたい地域の固有の文化とか生活というのを寂えさせる面があります。しかし一方で、道路は便利にならないと、ローカルな所に住んでいる人たちの生活が不便になるという面もあります。

道路が持つ二面性をどううまく調整して道をつくっていくかというのが大ききポイントになると思います。今、中山道の問題が取り上げられていますが、アンティック街道というのが、本来の意味で地域の活性化につながるのかどうかという事は、おそらく、そこ

のところに、どううまく英知を集めてつくっていくかということになってくる気がします。

■草柳 ちようど、けさの新聞の東京版に杉並区のシルクロード構

想が掲載されていました。この杉並区をもっと知ろうという意味でこのシルクロードが造られるそうなんです。目的は、まちの再発見にあると思うのですが、この構想からも、自分のまちや他のまちを訪ねた時でも、まちを知るためのスタート地点が道であるということが認識できると思います。道は、まちを知るためのスタート地点であるということだけでなく、もう一つは、生まれてから自分の家以外の場所初めて踏み出すのは道だと思ふのです。いわゆる、物と

真似をしないまちづくりこそ魅力的な観光資源



荒井 尚子
東京大学名誉教授

出あったり、人とふれあったりする公共の場所として、初めて体験するのが、自分の家の前の道であ

り、人間の暮らしということに身にしみてわかっていく場所が道だと思ひます。その思いを、私は5ヵ月ほど前に、新宿から下町の文京区へ引越して強くしました。そこは、東京の江戸情緒が残っている昔ながらのたたずまいなんです。そこで私は、都会では見ることのできない下町らしい風景に出逢えたんです。それは、道路で子供たちが縄とびやゴムパンなどをして遊んでいた、夏には、おじいさんが道に縁台を持ち出して夕涼みをし、あるいは、道に植木鉢を並べている姿があったんです。昔ながらの風物詩が、そのままあることに、私はとても感動しました。

道が、まさに自分の家の庭の延長であって、子どもにとっても遊び場の延長なんです。つまり、下町の人々にとっての道というのは、言うまでもなく公共の場ですが、同時に私のものである、という道を自分の生活の場としても見ているわけです。しかし、公共というものが逆になって、どうせ自分のものではない、と考えてしましますと、ゴミが山のように積まれてしまうような惨状たる結果を招いてしまいます。ですから、都会では、この公共の場というものを、みんなのものであり、自分のものであるというとなえ方を

ことが大切であると思います。そして、一番身近な公共物である道を大事にしなければ、人々の暮らし、ひいては、人間をいとおしみ、いつくしむことにはならないと思います。

■亀谷 私たち若衆会は、近代化の波によって、さびれてしま

中山道商店街を、何とかしなければいけないと思い、2代目商店主らでこの会を結成しました。最初は仲間を酒をのみながら議論しているうちに中古の山車を譲って祭りに協賛したり、日本一長いつな引きを企画したりと、除々に活動を進めてきました。でも、58年9月には、思いもよらない大水害が我々のまちを襲い、ドロとゴミとの戦いが続きましたが、これに負てはなるまいと、60年に第1回中山道まつりを開きました。ことは、69次物産展や、69次宿場会議も開

古いものを残しながら活性化を図りたい



亀谷 修司
中山道若衆会会長

き、沿線からの協力によって成功させることができました。69番という中山道を、線で結ばば、すごい力になるんじゃないかというところで開催したんです。で、こういう積み重ねを土台に、情報の交換とか、先ほどの話しにもあったんですが、古いものを残しながら、まちの活性化につなげていきたいと考えています。

中山道を中心に生き生きとしたまちにしてほしい



【中山道】 これ、パネラー全員に

お話しをちょうだいしたんですが、話し足りないことや意義などありましたらお話しください。

【中山道】 道路整備というのは、地方

の進捗とか内需拡大など、いろんな意味で欠かせません。たとえば、我が国の自動車普及率をみてみると、高いんですが、その中から乗用車だけ取り出してみると、ヨーロッパやアメリカのどこと比べても最低です。本来、道路がよけれ

ば、もっとみんなが車を持って旅行を楽しみ、日常に使えると思います。

【中山道】 先ほど道路を守るとい

ことでは、ロマンチック街道あたりでは、第2次世界大戦の時に大変なめにあいながら、地元の人たちの強い力で、これをつくり上げていったと申し上げました。つまり、ここでは、自分のまちに誇りを持ち、自分のまちを愛する気持ちで、自分自身を育てていくことが、中山道を守っていくことにつながります。

これから、中山道がどうか地域みなさんが力を合わせてつくっていくてほしい。今後、機能社会が、さらに忙しくなるとなると心身ともに休まらなければならぬ。中山道へ行って休みたいな、と、そんなことに思いをはせるような道づくりを願っています。

【中山道】 たとえば、歴史的なところ

や自然が豊かなところを通じていることをもっとアピールすることと必要だと思います。仮に、中山道が生きた意味での博物館であるとか、あるいは、まちづくりは子育てではないが、中山道を生きた教材として学校でも積極的に活用してはどうでしょう。そういうことが行われていくと、道の持つ意味とか今後どうしていくかというところについて、もっといろんな人が考え、興味を持つのではない

でしょうか。

【中山道】 私は旅行が多くていろ

ろな所へ出かけますが、一番多く見かける失敗策というのは、要するに、外からの目がないと、内からだけの目で何かやっちゃった場合です。中山道を生きたときとさせるためには絶対、外からの目がないと思えます。そういう意味では、せっかくこうして優秀な目を持つ人たちがいるんですから、ぜひこのまちにとっての具体的な提案などをお話しいただきたいのです。

【中山道】 私は、旅をして、そこを

2度訪ねた時、たいていがっかりすることが多いんです。それは、若い女性の旅の特集ページにあったような、どこか他でも見たようなメルヘンチックなまちになっているのが多いからです。どうしたらうけるのかというところは、他にはないまちづくりをした時に、それが一番、外から来た人にとっての魅力的な観光資源になるのだと思います。

【中山道】 本場にそうですね。昨年

環境庁が中心になってアミニティ・コンクールを行ったんですが、そこで1等になったのは大分県の湯布院という町で2等は滋賀県の高月町でした。私は、この高月町へ行ったんですが、若者が言うに、

この観光資源は、我々のライフスタイルだと教えてくれたんです。今、草柳さんが言われたように、観光客のために何かをするという事は一斉せず、自分たちのために何かをやっているんです。自分たちの生活を生きたときとさせることによって、しかも観光客にもプラスになるというようなライフスタイルを一生懸命やっていたのです。草柳さんの話しは重要なポイントであると思います。

とにかく、中山道というのは、

お金で買おうと思っても買えません。今、新しくつくろうと思ってもできません。つまり、古い歴史をしようとした中山道という道を持っているのです。この道には、いろいろな考え方をされる方もおられるでしょうが、一人一人の立場をのり越えて、もっと広い絵でみてみると、やっぱり守っていかなければならないだけのものを持っている道だと思えます。パネラーの方々からも話しがあったように、そう簡単には新しいまちづくりはできません。ただ、観光資源だけで中山道を使っていけば、おそろくは何年か先に、ばらばらになっ

てしまうような気がします。先ほど、モレシヤンさんが古くていいものを守るんじゃないか、生かさないと言われましたが、素

晴らしい言葉だと思いました。副知事さんも言われたが、心の道、心を育てる道にしていきたいと思っています。それには、車が、ちゃんと通れる道も同時に整備しなければなりません。美濃加茂市が、中山道を中心に、人々が住んでる生き生きとしたまちになってほしいと願っています。



【中山道】 ヒューマン・ロード・フォーラム

が終了と同時に、今須宿と落合宿をスタートした飛脚が、美濃中山道宣言をたずさえて会場に到着。メッセーじを受け取った渡辺博万市長が「美濃中山道には日本人の心の原点があります。きょうのフォーラムで世界に誇りうる歴史的価値を再認識できました。これを記念して美濃中山道アンテナ街道と名づけます。そして、これを機会に、郷土の心を一つにして守り育てていきます」と宣言し、メッセーじが渡辺市長から榎原副知事へ手渡されました。

まちへ糸口探る

「災害のない安全なまちづくりをめざして」をテーマに9月27日、文化会館で美濃加茂市災害シンポジウムが開かれました。

過去の災害を教訓に、本曾三川治水百周年を記念して行われたもので、この日、消防団員をはじめ自治会長、各種団体、一般市民ら約400人が参加。最初に防災都市計画研究所長の村上康直さんから「災害現場に学ぶ防災対策」をテーマに基調講演がありました。村上さんは、国内外で起きた災害をスライドを使って原因や対策などについて説明、過去の災害に学ぶことの大切さや住民が自主防災意識を持つことの重要性などを訴えられました。この後、災害シンポジウムに入りました。



過去の教訓を伝えてほしい

防災について先進的な美濃加茂市でこの会が持てることは意義深い。さっそくパネラーの方々に、それぞれの立場から話をいただきたい。

としてはまだまだ不足しているものが多いように思う。また、ひとたび災害が起きると、対策を講じていくわけだが、それが整備されていくと、人々の心から災害というものが忘れ去られてしまうので、過去の教訓を伝えていくことも大切だ。要は、その土地、土地にあった、都市にあった町と人間がよい関係を保っていくことが大切だと思う。

伊藤 藤 私の町は、海拔マイナス70cmという地理的条件にあり、昔から災害と戦い続けてきた。美濃加茂市でも58年に大水害が起き、ひどい所で住民の心構えが大切だ



住民の心構えが大切だ

伊藤 藤 東海沖地震がうわさされている折、私の町では、「自分たちのまちは自分たちで生命財産を守ろう」と、全町で国の自主防災会を結成した。特に感心の高い静岡県で自分たちの町は自分たちで守らなければならない。



自分たちの町は自分たちで守らなければならない

は、12月の第1日曜日を防災訓練の日と定め、県民が一斉に防災訓練を実施している。

私の町では、いつ起きるか知れない地震に備え、夕方から夜にかけての訓練も行っている。時間は6時から9時までで、その訓練には中学生も全員参加する。たとえば、中学生女子には、婦人会と一緒に炊き出しをしてもらい、男子には水くみや消火器のあつかいなどを体験してもらう。こうすることによって地域連帯感が高まり、地震のような大きな災害にも連携プレーができるし、昼間に起きた時でも中学生が、かなり責任をはたしてくれると思う。

そなえあればうれいなし、と、ことわざにあるように、行政にたよっていても限りがあるので、自分たちのまちは自分たちで守ることが大切だと思う。



本曾川護岸堤防と内水排除ポンプ場

安全な



小島 わが国ほど災害がそ

ろっている国は、世界的にもあまり例を見ない。昭和36年に災害対策基本法ができてから、国をはじめ地方公共団体にいたるまで、建物の構造基準や安全対策などに目を光

自主防災組織の強化や地震予知能力の開発を進めなければ



国土庁防災局長 小島 寛

らせてきた。しかし、まだまだそれらは完全とは言えない。さらに今後は、都市における避難路の整備など都市防災の推進や、情報伝達、自主防災組織の強化など防災対策の強化、地震予知能力の開発など、もっともっと推し進めなければならない。

美濃加茂市でも都市化が進み、新しい住民も増えている。新しい住民も増えている。このまちの災害の歴史を知らない。そういう人たちに限らず、過去の災害の教訓を伝えていくことも必要だし、



安全なまちへ建設進む、

国から地方に至って、かなり防災対策は充実してきているものの、やはり、市民一人一人の心構えが大切だと思う。高井 私のは、市発足以来30年の間に3度も災害救助法の適用を受ける大きな災害に遭遇してきた。言い換えれば、10年に1度の割合で災害が起きたことになる。こうし

本曾川沿線が一体となつて防災を考えては、



美濃加茂市議会議員 高井 寛

た教訓から、私は次のことが大切だと考える。1つは、行政側にも限度があるので地域ぐるみで助けあう。2つに、8・17災害が示したように、

山間部などにはまだまだ危険な所がある。幸い、治山治水整備が進められているので、これをさらに推進する。3つに、多目的ダムである丸山ダムをはじめ、上流の本曾川水系の整備を1日も早く完成させる。4つに、すでに当市には同報無線が整備されたが、これを生かした情報伝達システムの確立をする。5つに本曾川水系が一体となって、上流ダム群を早期完成させる。これらを要点としてあげる。そして、私個人としての提案だが、古代より川のほとりに文明が発達するといわれるが、この母なる川は、文化を生み、産業を育ててきた。そこで、本曾川沿線の人びとが集い、語り、本曾川サミットを開催してはどうだろう。

市民発言 社会連帯感のうすれる中で、今、渥美さんの話にあったように、中学生を防災訓練に参加させることは生きた教育として素晴らしい。当市でも、社会教育の場でこういうことを実現させてほしい。

市民発言 今、本曾川に堤防が築かれているが、昔と比べ水深も土砂がたまつたせいか浅くなっている。9・28災害のような大増水が起きた時堤防を越える心配はないか。

高井 丸山ダムについては現在より3.5倍の容量に耐えられる構造に改修し、本曾川護岸堤防も、9・28災害時の水量をはるかに上回る設計となっているので心配はないと思う。

市民発言 東海沖地震がもし起きたとしたら、美濃加茂市はどうなるのか。仮に起きたとしたら、どんなことに気を付けなければならないのか。

小島 東海沖地震が起きた場合、美濃加茂市の位置なら震度5以下を予測している。この場合、現在の建物がおれることはないと思うが、家庭内の家具などはたおれる心配がある。そのため、①とめがねなどの転倒防止策をする

②ガスなどを使っている時の火災を考えて消火器を備え、訓練にも参加する。③いざと

いう時に備え、水をバケツなどにくんでおく、などの備えが考えられる。

住民と行政が横の連携をとることが大切だ



岐阜日日新聞編集委員 溝 脇 昭

溝脇 きょうのテーマは、とてつもなく壮大だ。今の話を聞いていて言えることは、次のようなことだと思う。

課題として、短期と長期に分けると、短期では、自主防災組織をつくり、川の流域が一体となって総合治山治水事業などを進めること。長期では、住民と行政が横の連携を取り、国、市町村を通じて防災対策を構えていくことが必要だ。

山と川のあるまちは、怖い面もあるが、住めば素晴らしいことがいっぱいあると思う。きょうのシンポジウムが、安全で豊かなまちづくりのための方向づけの糸口になれば幸いだ。

和風的な公民館で 地域交流を

太田公民館が完成



木曾川護岸築堤工事に伴う
改築工事により、ご迷惑をお
かけしました太田公民館がこ
のほど完成し、11月14日に竣
工式が行われます。

建物は鉄筋コンクリート2
階建て、1階は150人収容でき
る集会室および、事務室、2
階は学習室（2部屋）、研修

しています。



使用申込みは11月9日から
申込みは太田公民館262628まで

室、会議室（和
室2部屋）があ
り、木曾川中山
道沿いの風情に
合った、茶系統
の色で落ち着いた
雰囲気になっ
ています。

公民館活動を
はじめ、各種会
合など市民のみ
なさんのコミュ
ニケーションの
場として大いに
利用していただ
くことが期待さ
れます。

11月18日の開

館前に、15

日から17日

までを一般

公開とし、

あわせて太

田公民館文

化祭を開催

しますのこ
多数のご来
館をお待ち

国民健康保険証の 更新手続きを！

現在お持ちの国民健康保険被保険者証（保険証）は11月30日で有効期限が切れますので下記日程にて更新します。

最近、保険証に関する事件が新聞紙上ににぎわっています。保険証は大切なものであると同時に他人に悪用されま

すと本当に恐いものです。このような事故を防ぐため、更新は本人又は、家族の方が旧保険証・印かんを持参のうえ、直接おこしください。

地区	山之上	蜂屋	上古井	下米田	伊深	下古井	加茂野	三和	太田
と	11月16日(月) 9時～16時	11月17日(火)	11月18日(水) 9時～16時	11月20日(金)	11月24日(火)	11月25日(水) 9時～16時	11月27日(金)	11月27日(金)	11月16日(月)～30日(月)
き	山之上連絡所	蜂屋連絡所	上古井連絡所	下米田連絡所	伊深連絡所	下古井公民館	加茂野連絡所	三和連絡所	市役所保険係
ところ	山之上連絡所	蜂屋連絡所	上古井連絡所	下米田連絡所	伊深連絡所	下古井公民館	加茂野連絡所	三和連絡所	市役所保険係

※当日都合の悪い方は16日より30日までの間に市役所市民課保険係にて更新をしてください。

（日程当日は、上記指定場所ではしか更新できません）

詳しくは、市民課保険係（電話 25-2111 内線221,222）まで

新しい国民年金制度を

育てましょう

国民年金は昨年の法律改正

により、全国民共通の基礎年

金を支給する制度となりました。

支給する年金額も時代に

したものと、世代間、制

度間のバランスも図りました。

今後国民年金は社会情勢

の変化に対応し、より安定し

た制度運営を図り、年金制度

きます。

この国民年金をより身近な

年金制度として理解していただ

くため、10月、11月を国民

年金制度推進月間として、市

ではつぎの日程により年金相

談所を開設いたします。

日頃、年金について疑問に

思っていることや、自分の年

年金相談所開設

日程 午前：午前9時から正午
午後：午後1時から4時

11月20日(金)	11月19日(木)	11月18日(水)	11月17日(火)
午後	午前	午後	午前
中央公民館	上古井公民館	下米田連絡所	山之上連絡所
		加茂野連絡所	蜂屋連絡所
		三和連絡所	伊深連絡所



取壊し家屋等の 届出は年内に

固定資産税のうち家屋に係る税金は、原則として建物登記簿に登録されている内容に基づき、毎年一月一日現在の所有者に課税されます。そこで、年の中途中で家屋の全部または一部を取壊されたとき、また相続などの所有権移転で家屋の名義を変更されたときは、年内に手続きを済ませてください。

登記家屋：法務局で登記変更
未登記の家屋：税務課へ届出
詳しくは、税務課固定資産
税係へ。

15日から狩猟解禁

今月の15日から、来年の2月15日まで狩猟解禁期間です。狩猟期間中、全国で死傷事故（他損、自損）が多発しています。十分注意してください。なお、伊深、三和地区は、

今年から狩猟解禁となります。
アルミ缶回収の
予定日の変更

市生活学校では、第4回目のアルミ缶回収を行います。7月1日号の広報でお知らせしました、11月22日を左記の日付に変更します。みなさんで協力下さい。
回収日 11月29日(日)
回収場所 市役所西館前
※買い上げ価格は1kgにつき80円です。

史料は語る ⑥

正眼寺の甲冑 (よろいかぶと)

関山無相大師によって開かれた伊深・正眼寺（谷耕月老師）は600年の歴史をもつ古刹です。杉木立に囲まれた広い境内は静寂をきわめ、臨済宗の禅道場として全国的に知られています。

このたび正眼寺の歴史をものがたる「佐藤家甲冑」が正眼短大付属の逸外記念図書館に展示、公開されました。

これらの甲冑は江戸時代の伊深周辺の領主であった佐藤駿河守が所有していたもので、その代官をつとめていた小田島源太郎が明治4年正眼寺に寄進したとされています。

それ以後、寺宝として同寺了心院に保管されていました。展示された6領のうち4領については昭和50年3月に市の文化財に指定されており、いずれも室町末期から戦国時代にかけての作風を伝えるもので、その見事なつくりには目を驚かせます。

なお、見学に際しては事前に正眼短期大学（伊深町876-10、Tel③-1372）へご連絡ください。



新しい家顔①

夫婦で子育て

最近の子供たちの様子、二十年前、三十年前に、自分たちが子供であったころと比べて、だいぶ変わってしまったと思う親はたくさんいると思います。たとえば、子供の数が少なくなった、病気をしなくなった、遊びが変わってきた、おもちゃが豊富になり高価になった、塾やおけいこことなどで多忙になったなど、たくさんの方があげられるでしょう。

のが肯定的な面事をしただけで、いまの親たちの世代にはもっと多かったと思います。自分の家に親類の人が泊まりにくるということもありました。いろいろな話を聞く機会があったものです。現在の主婦たちが多忙になったこと、ホテルが広く普及したこと、親類や知人とのつき合いが煩わしいと思う人が増えたという事情が、これらの機会を少なくしてしまったのです。なんでもないことのようにですが、親、兄弟以外の人と親しく接すること、言葉を変えて言えば、多様な人間関係をもつことは子供

経験と心の発達

なくなったとか、けんかをしなくなったという特徴をあげる親もいるでしょう。すべて現在の子供たちに一般的に認められることで、これらについてはご承知のことも多いと思います。

これとは別に、よその家庭に行ったり、よその人が自分の家にくることが少なくなったということもあります。叔父さん、叔母さんの家に泊まりがけで遊びに行き、いとこたちと一緒に生活するという経験です。都市の大学生に幼稚園か小学校のころに、このような経験をすることがありますかと質問すると、わずか一〇%程度のも

東京都立大学教授・心理学者

陀摩 武俊

われら仲間たち

ラッパ隊から音楽隊へ

美濃加茂市消防音楽隊は、今年で結成13年目になります。昨年まではラッパ隊という名称であったとおり、発足当時は三巻ラッパでの演奏をしていましたが、行進曲もできるようにと、吹奏楽に切り替えてきました。

現在では、消防行事はもとより、福祉まつり、産業祭といった市の行事等にも依頼があり、市民バンド的な存在になってきました。演奏曲も、ポピュラー、歌謡曲などの分野にも挑戦しています。

一時期、隊員不足に陥り、解散という危機もありましたが、ここまでになれたのも、結成以来、吹奏楽への切り替えに尽力された片桐久之元隊長、さらに、市民バンドへの方向づけを果たされた若宮良三前隊長両人の努力と誠意の賜物であると言って過言ではないでしょう。



現在団員は29名（うち女性6名）で、毎週一回、前平公園管理棟にて練習しています。人数不足、楽器の不足、編成上のアンバランス等、まだまだ改善しなければならない点もありますが、きびしい中にも楽しく練習に励んでいます。もし、参加したいという方がお見えでしたら、下記へ連絡下さい。隊員の3分の1は学生時代に吹奏楽の経験のない者ですので、素人の方でも大いに歓迎します。☎2111 内線 274番 市総務課消防係



「家庭との連携を保ちながら道徳実践のできる子をめざして」をテーマに、昭和61、62年度にわたって文部省の指定道徳教育校として取り組んできた加茂野小学校で10月15日、県内外から学校関係者ら約50人が参加して研究発表会が行われた。

午前中は、仲よし活動や授業、清掃活動の公開があった後、午後から全体会および分科会ごとで実践発表や討議が

行われた。



ラムを組み、共通歩調で進んでいかなければならぬ。

そこで学校では、61年春にPTAをはじめ、校下の自治会、子ども会、婦人会、社会福祉協議会、健寿会など、各種団体に呼びかけ、学校、家庭連携推進会議という組織を結成、地域ぐるみで子どもを、あるいは大人も勉強し、道徳という問題を考えさせた。

地区懇談会を自治会ごとに開き、PTA会員はもちろん、子育ての終わった主婦

加茂野小

文部省指定道徳教育推進研究発表会

学・家連携、学校の伝統に

行われた。

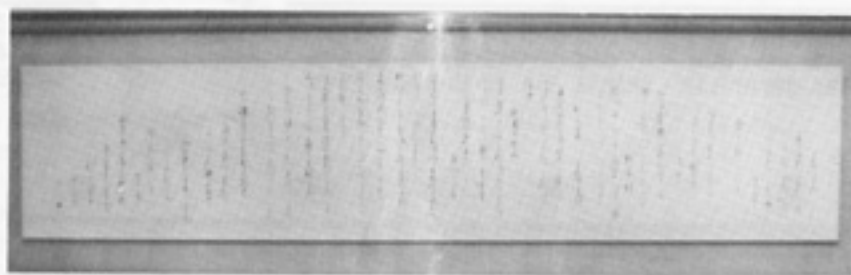
道徳教育を進めるためには子どもが学校で知識を身につけるだけではなく、そのことが実践されてはじめて意義がある。そのため、学校と家庭そして地域がしっかりとス

やお年寄りにも呼びかけいいことも悪いことも話し合った。また、朝のラジオ体操にも、家族そろって参加するよう呼びかけ実践した。

一方、学校でも、子どもたちが勉強した道徳ノートを家庭でも見てもらい、両親からの意見なども書いてもらうようにした。さらに敬老会で、子どもたち全員が手紙を渡し、運動会にも招き、ゲートボールなども一緒に楽しんだ。このほか、各世帯への定期的な機関紙や学校内の新聞なども発行し、道徳に対する感心を高めた。

こうしたことにより、子どもたちには思いやる心や、あいさつなどの基本的な生活習慣に少しずつ変化が表われ出した。一方、地域の人たちも学校に目を向け、道徳に対する感心が少しずつ高まっている傾向にある。

加茂野小学校では、2年間の研究を基に、学・家連携の道徳教育を学校と地域の伝統としてさらに推し進め、みんなが住んでよかったと思えるような地域づくりに行きたいとしている。



レベルアップした美術展

市展賞に渡辺さんらの作品

10月18日から25日まで開催された市美術展には、市内外から18点が出品され、力作が勢揃いなかで次のみなさんが入賞されました。

米蘭6部

- 〔市展賞〕渡辺雄（本郷町）
〔市長賞〕青山勝枝（丹羽郡
扶桑町）、〔教育長賞〕福住
勝彦（本郷町）、〔優秀賞〕
伊藤浩二（本郷町）、曾我宏
美（八百津町）、吉田謙一（
関市）、〔努力賞〕野口貴二
（太田町）、小林保彦（森山
町）、福田忠久（関市）、板
津国雄（本郷町）、田口保子

日本画の部

- 〔市展覧〕 堀部令之佑（清水町）、〔市長賞〕 豊田正己（可児市）、〔教育長賞〕 山崎信吉（関市）、〔優秀賞〕 船坂正芳（御門町）、岸由美子（可児市）、岡宮勉（加茂野町）、佐光きみ子（太田町）（努力賞） 高井昌子（関市） 奥野露子（下古井）、伊藤満里子（太田本町）、渡辺あゆみ（新進町）、堀田俊彦（伊深町）、各務和彦（関市）、山下芳由（関市）

- 〔市展賞〕 座馬照子（本郷町）
〔市長賞〕 樺村淳雄（中高町）
〔教育長賞〕 吉田和彦（御嵩町）、〔優秀賞〕 古川茂生（山之上町）、交告加代子（坂祝町）、井上辰子（土岐市）、渡辺浩（下吉井）、加藤美智子（蜂屋町）、河合恵美子（富加町）、大脇鈴子（八百津町）、渡辺満喜子（森山町）
〔努力賞〕 鍵山万亀男（御嵩町）、今枝ゆき恵（太田本町）
鈴木蘭峰（関市）、山中肇（美濃市）、板津さだ子（本郷町）、土屋和道（七宗町）、中村久美子（太田町）、河井

證券S組

- 〔市展賞〕 水戸尚（本郷町）
〔市長賞〕 坂井苗子（蜂屋町）
〔教育長賞〕 堀江茂代（加茂野町）、〔優秀賞〕 堤玲子（本郷町）、〔努力賞〕 横山郁子（野笹町）、竹谷勝也（三和町）、杉山栄子（新池町）

- 〔市展實〕藤吉正道（加茂野町）、〔市長實〕井川一夫（日立岐阜工場）、〔教育長實〕秋松一也（八百津町）、〔保秀實〕渡辺卓美（加茂野町）、座馬茂幸（森山町）、佐藤親生（下古井）、〔努力實〕春見昭平（蜂屋町）、渡辺誠治（本郷町）、武市幸生（御門町）（敬称略）

11月の催し みんな集まれ!

図書館 ☎25-7316

移動図書館日程・休館日 3・4・11・18・19・23・25日

各会館でのスタッフ



地区	巡回日	巡回場所	巡回時間
加茂野	11月16日(月)	加茂野小学校	1:00~1:30
		加茂野連絡所	1:40~2:10
		駅前公民館	2:20~2:50
		堀辺公民館	3:00~3:30
		境松雇用促進住宅前	3:40~4:10
伊深	11月24日(水)	伊深小学校	1:00~1:30
		伊深連絡所	1:30~2:00
		大洞公民館	2:10~2:30
		中切橋	2:40~3:00
		野地原	3:10~3:30
		最乗寺前	3:40~4:00
三和	11月26日(木)	三和小学校	1:00~1:30
		三和連絡所	1:30~2:00
		中井屋公民館	2:10~2:30
		上井屋公民館	2:40~3:00
		上水無瀬	3:10~3:30
		中川浦公民館	3:40~4:00
下米田	11月27日(金)	下米田小学校	1:00~1:30
		下米田連絡所	1:40~2:10
		信友公民館	2:20~2:50
		小山公民館	3:00~3:30
		牧野公民館	3:40~4:10

新着図書 タタリ朝あり(三浦綾子)、ヴェクサシオン(新井満)、詩の真実—俳句実作作法(森澄雄・角川春樹)、生き方の研究(森本哲郎)、魚も病気で悲しんでいる(山本保彦)、絵の中の子どもたち(高橋美代子)、女のおせんば(田辺聖子)、風景と都市の美学(内田芳明)、昆虫たちの住める街(松山史郎)、ダムをとめた小さな魚(辻田啓志)、入門パンアートの花(若林マスコ)、ネコと魚の出会い(西丸義哉)、仏教と神道(ひろさちや)、武田信玄(童門冬二)、一筆がき俳句の描き方(足立玉翠)、兵器メカニズム図鑑(出射忠明)、石仏・道祖神のある風景写真(岩間俱久)、浮世又兵衛行状記(篠田達明)

●お話し会 とき 11月7日(土)、15日(日)の午後2:00~

図書館野外講座

「円空の風景をあるく」

図書館では、円空誕生の地と修業の地の円空仏を見学する講座を開きます。

【行先】羽島市(薬師寺、観音堂)と滋賀県坂田郡伊吹町春照観音堂(十一面観音)

【とき】11月26日(木)午前9時図書館集合~4時30分帰着

【会費】2,500円

【募集】65名(図書館の特別講座に併せて計画したので、応募者多数の時は教養講座受講者を優先)

申込みは11月15日までに図書館へ。

太田公民館サークル

ペン習字会員を募集

毎月、第1・3金曜日の午前9時から11時30分まで活動中。加入希望者は、西町8-126 高島路子☎7281まで。



中濃体育館 ☎26-3241

休館日 11・25日

11/1~12	菊花展	8:30~
1日	市民バレーボール大会	"
3火	中濃地区高校弓道新人戦	"
3火	産業祭準備~6日	"
7土	第10回美濃加茂市産業祭	9:00~
8日	"	"
12木	NTT中濃地区バレーボール大会	8:30~
13金	スポーツ少年団バレーボール部会	19:00~
13金	市長杯テニス大会ドロー会議	"
15日	ブレ未来博県民園芸大会	8:30~
15日	中濃駅伝大会ゴール会場	"
16月	グランド・テニスコート調整会	18:00~
22日	スポーツ少年団交流バレーボール大会	8:30~
23月	県下高校卓球新人戦	8:30~
24火	年末調整説明会	13:00~
24火	学校開放調整会	19:00~
29日	日立バレーボール教室	8:30~
12/6日	可茂地区レディスバドミントン大会	8:30~

中央公民館 ☎25-4141-3

休館日 1・15

6(金)~9(月)	尚美会展	
11(木)	青年海外協力隊募集説明会	18:30~
21(土)	市青少年健全育成大会	13:00~
23(月)	第10回中学生の体験発表会	10:00~

文化会館 ☎25-1108

休館日 1・8・16・24・30

3(火)	美濃加茂市文化協会 秋の文化祭	9:00~
7(土)	美濃加茂市小中学校音楽会	
14(土)	第36回市民の劇場 「ベレス・ブラード楽団」	
15(日)	春日演芸ショー	
17(火)	おやこ劇場例会	
10(火)~15(日)	松坂芳助展(第一展示室)	
20(金)~23(月)	美濃加茂市子ども展 (第1・2練習室、第1・2展示室)	
26(木)~29(日)	堀部曾石 書作展	

文化会館では、香り高い文化を育てるため、各種の自主事業や貸館などの活動を展開しています。

今年は特に、芸術活動の底辺を広げるため、音楽祭を小中学校と一般に分けて開催したり、郷土作家(プロ・アマ)の作品展を企画するなど、その盛り上げを図っています。

さて、その第一弾として、郷土出身の版画家による作品展を開きます。

松坂芳助版画展

会期 11月10日~15日

会場 文化会館

